



■心構えと出来栄

三人のレンガ職人の話を、昨年、ホームページで紹介しました。この話は、家庭学習など、何かをするときの心構えに通じる話ですので、改めて紹介します。

旅人が三人のレンガ職人に出会いました。全員に何をしているのか尋ねたところ三人三様の答えが返ってきました。一人目のレンガ職人は、「見たらわかるだろう。レンガを積みと言われたから、レンガを積んでいるのだ。」との返答。二人目のレンガ職人は、「壁を作っているのです。これで家族を養うことができます。」と答えました。三人目は、「大聖堂を作っているのです。ここに人々が集い、悲しみは皆で慰め、喜びは皆で祝福するのです。」と答えました。レンガを積むという作業は同じですが、作業するときの心構えが全く違うのです。命令されてしている人、自分や家族のためにしている人、自分や家族を超えて社会のためにしている人。志や心構えが高いほど、その出来栄がよくなることは、容易に想像がつくと思います。

家庭学習に置き換えてみるとどうなるでしょうか。一人目の子どもは、「先生や親がやれと言うから、仕方なく家庭学習をやっているのです。」と答えます。二人目の子どもは、「テストで高得点を取るために、家庭学習をやっているのです。」と答えます。三人目は、「私には夢があり、将来、その夢を実現するために、家庭学習をしているのです。」と答えます。強制されて仕方なくする勉強では、残念ながら思ったほど学力はつきません。よく言われることですが、将来の夢ややりたいことは、学習する動機、モチベーションとなります。子どもに将来の夢ややりたいことがまだないという場合でも心配無用です。その場合は、最初に学習習慣を身につければよいのです。毎日、一定時間以上の学習をすれば、それが習慣化します。毎日継続することがポイントです。不思議に思うかもしれませんが、学習習慣が身につけば、将来の夢ややりたいことが見つかるのです。鶏が先か、卵が先か、という問題に過ぎない、と思っています。

■やれば、できる

野津原小学校の子どものための課題の一つは、決められた時間以上の家庭学習をすることです。学び方マニュアルで規定していますが、(家庭学習時間) = (学年) × 10 + 10分。6年生であれば70分です。小学校を卒業して中学校、高校と進学していく場合、学習内容は広くなり深くなりますので、学習に必要な時間も当然増えていきます。このことは、中学生や高校生になって初めてわかることではなく、小学生の今からわかっていることなのです。では、どうすればよいのか。簡単です。家庭学習を習慣化すればよいのです。当たり前にすることが習慣化ですから、習慣化すれば苦になりません。昨日は100分、今日は0分、というのは習慣化ではありませんので、毎日、同じペースで学習することをおすすめします。

子どもたちに家庭学習を促す目的で、「すいみんふり返しカード」で家庭学習時間を記入してもらうようにしました。当初、記入された家庭学習時間に困惑しましたが、記録を取り続けることで、考えて行動する子どもが増えてきました。80%近くの子どもが、決められた家庭学習時間をクリアするようになりました。「やれば、できる」を実感しています。続ける秘訣は、「三人のレンガ職人の話」に委ねますが、馬を水辺に連れて行くことはできても、無理に水を飲ませることはできない、と言われます。子どもを机の前に座らせることはできても、無理に勉強させることはできません。ここで大切なことは、意志あるところに道あり、という言葉です。後悔してもらいたくないという思いで、小学生の今、伝えています。

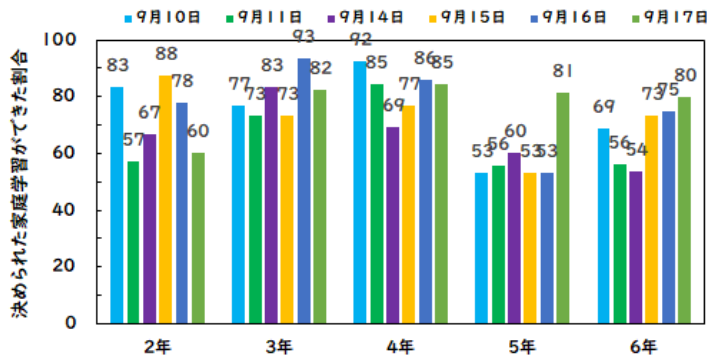


図 家庭学習ができた子どもの割合の推移

